第ⅩⅢ因子	276500
	担当部署
factor13	血液

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→血液学→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		特記事項なし
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	空腹時静脈より採血し、気泡、溶血及び組織トロンボプラスチンの混入を防ぐ。
検体採取の特別なタイミング	特記事項なし

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	2 黒小	3.2%クエン酸 Na	1.8	mL
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1）採取容器違いの検体 2）凝固検体 3）採血量過不足の検体 4）サンプリングできない検体
保管検体の保存期間	室温・当日中（追加検査については、検査室に要問合せ）

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部				
測定時間	当日中				
生物学的基準範囲	70～120% EX 共通 CL1141：「臨床検査法提要　改訂第 35 版」435				
臨床判断値	設定なし				
基準値				単位	%
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
70	120	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因	特記事項なし				
臨床的意義	第ⅩⅢ因子の低下や欠損症では、いったん止血した後に遅延性に再出血を認めることが特徴である。先天性の第ⅩⅢ因子欠損症では、生後約 1 週間で臍帯断端部から再出血をきたすことがある。また頭蓋内出血の頻度も高く、創傷治癒の異常や習慣性流産をもたらす。DIC や重症肝障害においてはほかの凝固因子と同様に低下する。シェーンライン・ヘノッホ紫斑病では第ⅩⅢ因子が低値を示すことがある。まれに第ⅩⅢ因子に対する抗体を生じる症例が報告されており、出血傾向を示す。 EX 共通 CL1141：「臨床検査法提要　改訂第 35 版」434-435				